

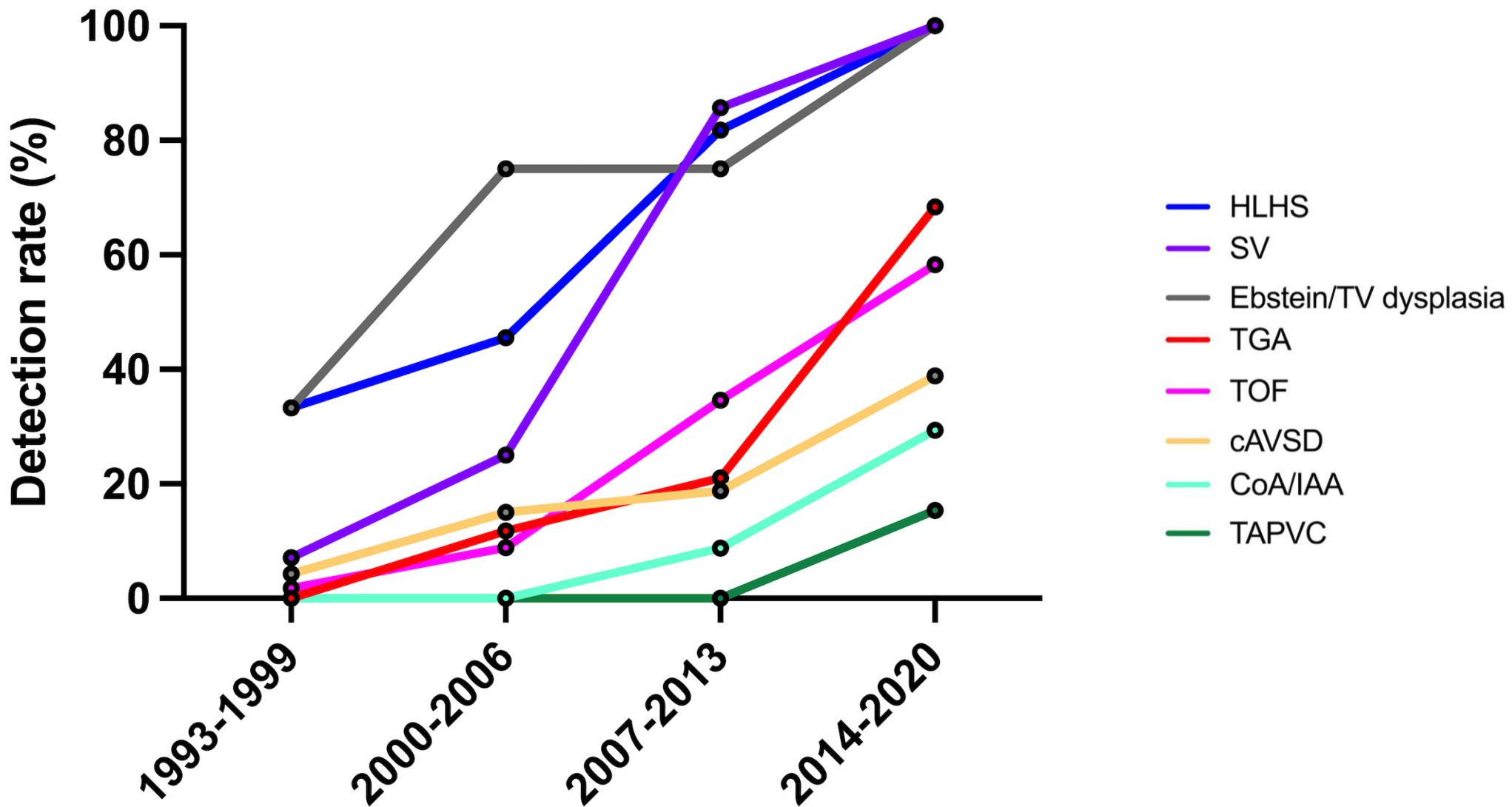
日本胎児心臓病学会スクリーニング委員会  
長野県 アクションプラン

# 長野県の胎児重症先天性心疾患診療



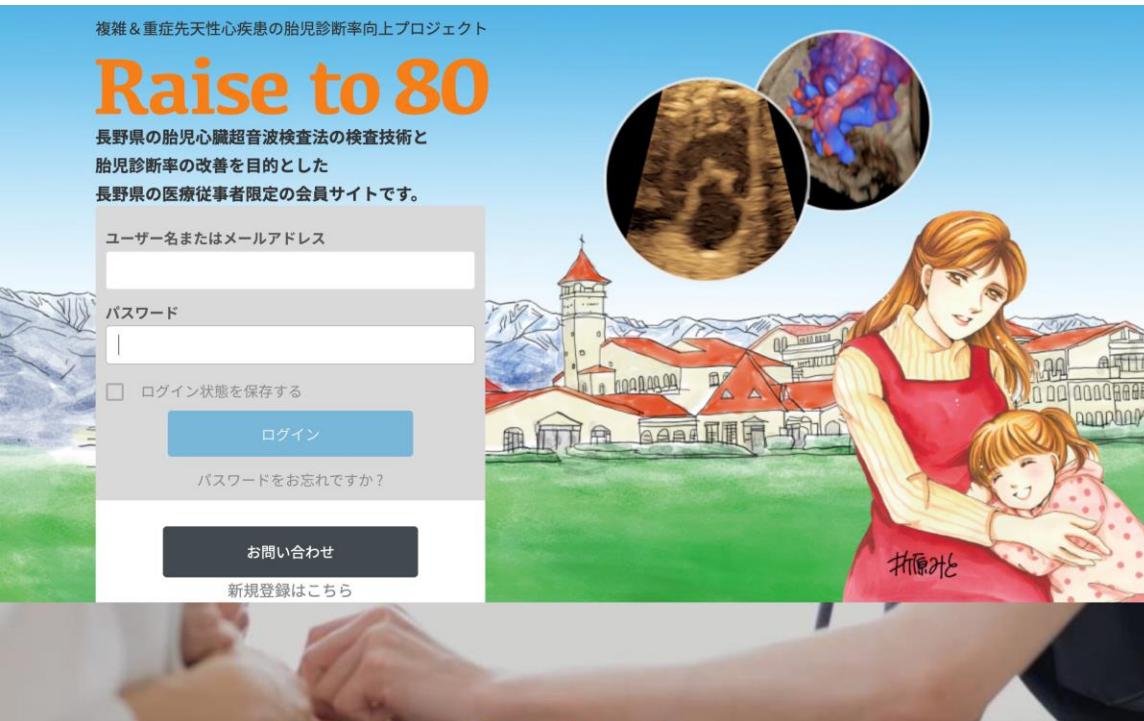
出生数/年 (2022年)	12143
重症孤発性先天性心疾患数 (2022年)	25
重症孤発性先天性心疾患数 10,000出生あたりの発生率 (2022年)	20.6
胎児心エコー精査（レベル2）施設	長野県立こども病院
先天性心疾患の手術施設	長野県立こども病院
胎児心エコー認証医数(2022年)	9

# 長野県の重症先天性心疾患の胎児診断率の推移



# 長野県の胎児先天性心疾患診断率向上への取り組みへのproject

2021年～ 胎児重症先天性疾患の診断率を80%以上に向上するためのプロジェクト  
‘Raise to 80’ を開始した。



- ✓ 産科医、超音波技師対象の会員制webサイト
- ✓ 会員との双方向性の症例相談
- ✓ 教育: 胎児診断に関するビデオライブラリー  
定期的なweb勉強会

# 1, Raise to 80 project開始前後での重症胎児先天性心疾患診断率の比較

	2018-2021	2021-2024
TGA	62.5% (10/16)	71.4% (5/7)
TAPVC	22.2% (2/9)	44.4% (4/9)
CoA/IAA	28.6 (2/7)	62.5 (5/8)
AVSD	60 (6/10)	66.7 (2/3)
TOF	66.7 (10/15)	61.5 (8/13)

✓ TGAの診断率は60-70%で頭打ち。

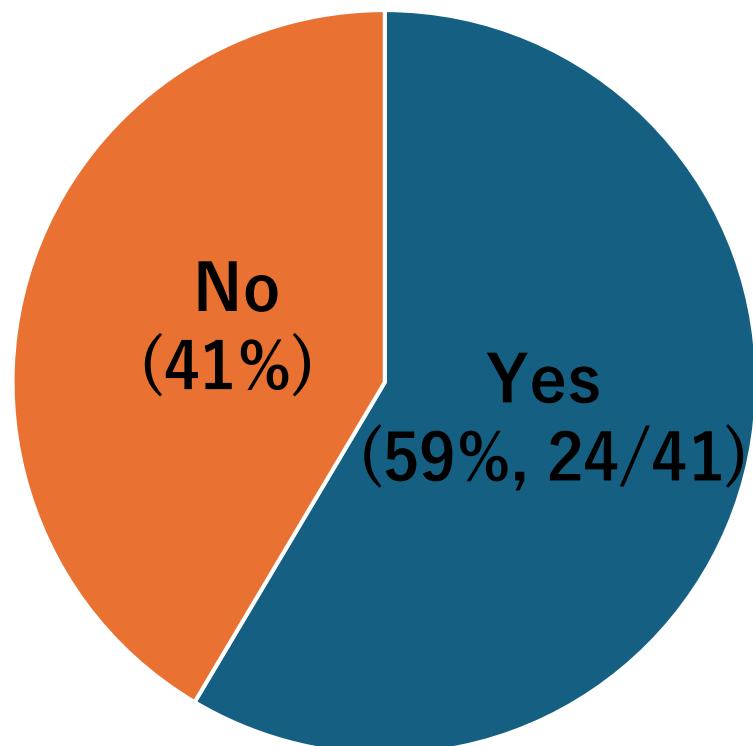
✓ TAPVCの診断率は依然として低い。

## 2. 長野県の産科医師へのアンケート結果

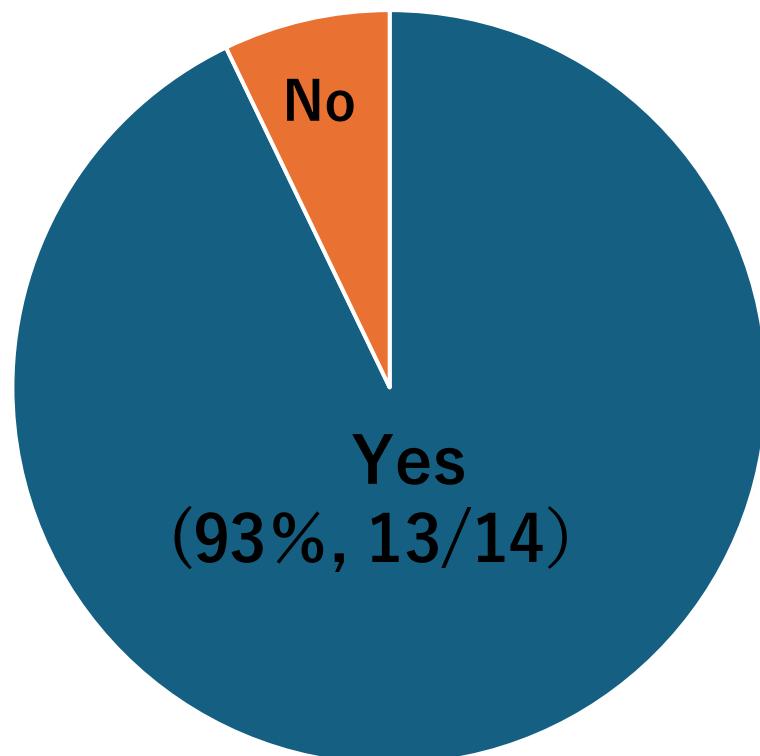
(回答率 95% (56/59施設) )

Q: 胎児心臓超音波スクリーニング検査を行っていますか？

クリニック



総合病院



✓ スクリーニングの実施に関しては施設間差異が大きい

## Q: 胎児心臓超音波スクリーニング検査を行っていない理由は？

:スクリーニングをしていないクリニック17施設

検査を実施したいが、胎児心臓スクリーニングのトレーニングを受けていない	11
他施設に紹介している（ため自施設では実施していない）	8
外来が忙しく、胎児心臓超音波検査に時間を割くことが難しい	7
検査を提供したいが、実施できる人がいない	4
胎児超音波検査（形態スクリーニング）は産科診療ガイドラインにあるように必須検査とされていないから	2
検査を実施したいが、胎児心臓スクリーニングが苦手である	2
検査を提供したいが実施（紹介）出来る施設がない	1

# 胎児先天性心疾患診断率向上への新たな取り組み

- ✓ まだ、検出率の十分でないTGA, TAPVCに目標を絞り、胎児心エコースクリーニング教育を強化して、さらなる診断率向上を目指す。
- ✓ 信州大学産婦人科学教室と話し合いを行い、共同の事業として、以下の事業を県下産科施設にアナウンスし、開始している。

- 1) 胎児心エコーの基本、TGA, TAPVCの胎児診断の教育ビデオを作成し、県内全産科施設へ配布。
- 2) 産科クリニックや総合病院へ直接出張し、胎児心エコーに関するレクチャー、胎児心エコーの機器設定から実技指導、アフターケアなどのトータルサポートを行う。

産科クリニックや総合病院への出張指導

県立こども病院 専門医が分娩施設に出張

## 胎児心エコー 技術普及



超音波発信器の動かし方を教える滝間淨宏医師(奥  
一5月23日、松本市の構造病院人科)

心疾患早期発見・治療へ

胎の先天性心疾患を出生前に見つける「胎児心臓超音波検査」(エココー)に關注し、県立二ノ病院(安曇野市)市長が今春、早い段階で異常を指摘するスクリーニング検査を実施している。内閣府の分娩施設を対象とした指導基準が策定され、実施が開始された。専門性の高い医師の医師が指導に当り、施設によってはまづきがあらわされるスクリーング検査の精度を高める目的。新町の命に関する心疾患早期に見つけ、後悔やかな治療につなげる。

心エコーは胎児の腹部に超音波を当てる心臓超音波検査である。異常が疑われる場合には、「エコ」も病院で「精査」を受ける。

**検査精度**を珍しく産科医が乗り出した胎児心電図のスクリーニング検査の指摘だ。分娩施設によつてはちつきがいる。検査の精度を上げし、重大な心疾患早期に発見されれば赤ちゃんの救命率が高まることは確実だ。胎児心電図超音波検査(心電圖)は確かな検査だ。胎位や骨盤狭いなどのリスクは異なる場合、各分娩施設でのスクリーニング検査を始めたばかりだ。タグドライバーやタグレスなどは現場の施設によって異なる。検査は、100人中1人にとどまる。多くの場合は、専門的な検査をする。

産科医「珍しい疾患発見難しい」

回上 赤ちや  
い疾患発見難  
る。県内の妊婦は「より安心して子どもを産める」と期待を寄せ、「笑わせる」と強く妊娠の腹部に(当ても不本意)「もう少し傾けて」。5月23日、いつも病院の電気清浄室で松ども病院の電気清浄室で松  
エコー、妊娠健の一環で、  
を保護するための超音波検査  
ラング鏡検査通常が確認  
精度を受ける。学会などが  
委ねられている。こも病院、  
たが、重症の場合は出生直後か

本島立の「人間の臨床検査」を訪れ、横西産婦人科の超音波発信装置を観察するた。症例は少く、関わる心疾患た。横西産婦人科の2週間の妊娠検査で、100人余が検査に来た。何らかの異常を示すもので病院へは1%程度とこども院長は横西院長は

横西産婦人科  
院長(45)と  
技師にブローバ  
器で胎児の  
方法を指導す  
ないものの命  
の画像を紹介  
う。

技術指導に見えた。それを発見された。初の検査で信を持つことになりた。この日、ニンゲン検査婦は「問題」心した様子。病気についておきまつた。高まるの「心強い」。リーニン機になる。精度を向と指摘し

（難波淳）「はい」と話す。  
（内山）「この間のベリーー、  
検査を受けた20代の妊婦  
が、産科医に「妊娠検査を  
問題なし」とされ、安  
心して出産したが、出産後  
子供が死んでしまった。」  
（内山）「これが原因で、  
検査の問題が問題にな  
ってしまった。」  
（難波淳）「はい。親として  
心配する気持ちも大切だ  
からね。」

(信濃毎日新聞 2025/6/19)